

城取博幸の  
「吉良氏」の研究①

NO174

2024年9月

城取フードサービス研究所  
城取 博幸

「吉良邸上屋敷跡」と「吉良氏の墓」

2024-12-11 17:02:11

12月には「忠臣蔵」が話題になる時

今回は浅野氏ではなく「吉良氏の言い分」について調べてみた

東京両国の「吉良邸跡」、中野の「吉良氏の墓」、愛知県西尾市吉良町に行ってきました

「赤穂事件」

12月14日は「赤穂浪士吉良邸討ち入りの日」

赤穂事件とは。1701年4月21日、江戸城松の廊下の「松の廊下事件」で、赤穂藩藩主「浅野内匠頭(あさのたくみのかみ(長矩(ながのり)))」が、高家「吉良上野介(きらこうずのすけ)(義央(よしひさ))」に刃傷に及んだことから、将軍「徳川綱吉」は長矩に対し即刻切腹を命じた

赤穂藩家臣は吉良氏にお咎めがなかったことから、それを不服として四十七士が吉良邸に討ち入り義央の首をあげた。その後切腹を命じられた

両国「吉良邸上屋敷跡」

徳京都墨田区両国 3-1



吉良邸跡

屋敷は広大で 2550 坪もあった

現在は 86 分の 1 に過ぎない

## 石碑



「みしるし洗いの井戸」

「みしるし」とは「天地を知る地を知る」の意味

「吉良上野介義央座像」



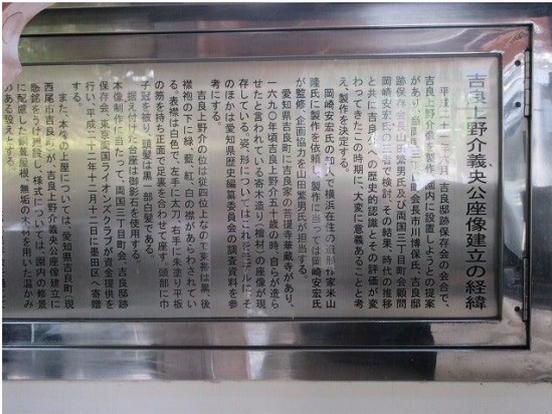
これはレプリカ

## 座像建立お経緯

平成 21 年 6 月、吉良邸跡保存会と両区 3 丁目会長、両国三丁目顧問の間で、時代の推移と共に吉良公への歴史的認識とその評価が変わってきたこの時期に、大変に意義があると考え制作が決定された

本物は愛知県西尾市吉良町の「華蔵寺」に保存されている

普段は公開されていないが、私は偶然本物を見ることができた



松の廊下事件

赤穂浪士四十七士討ち入り

実は吉良邸には3名の米沢藩士が詰めていた

1名は戦死、1名は逃亡？、1名は傷を負った義央の孫「義周(よしちか)」と共に諏訪高島藩へ同行した

吉良氏と上杉氏の関係

米沢藩は後継者いなかったため会津藩「保科正之(高遠藩出身)」の計らいにより、吉良上野介の長男「綱憲(つなのり)」を養子に向え出羽国米沢藩4代藩主となる

綱憲の次男「義周(よしちか)」は吉良義央の養子となり吉良家を継ぐ

赤穂事件で負傷したが回復

その後、幕府から「仕方不届」と吉良家は改易、21歳で諏訪高島藩で病死

墓は諏訪大社上社隣の「法華寺」の裏にある



「大石内蔵助以下三十六名署名義士願書」と書かれている

吉良町甚句



稲荷神社

祭神は「倉稻魂命」「伏見稲荷神」



家紋は「五三柏」

「華蔵寺(こぞうじ)」と「義央(上野介)の墓」

華蔵寺は愛知県西尾市吉良町岡山山王山 59



「赤馬玩具」「吉良上野介義央木像」「義央の茶道具」



そば処「玉屋」



元禄二八そば

そばは北海道産最高品を使用

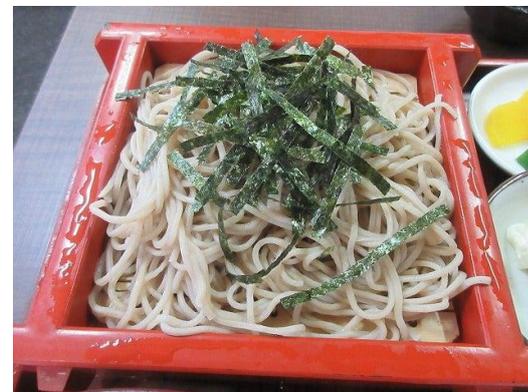
そばつゆ、汁ものは超特選醤油、本節を使っているという

メニュー



品数が多い

「ざるそば天丼セット」



海苔が多い

ゆず七味をかける



つゆをつけずそのまま食べてみる  
確かに風味がありおいしい  
つゆも香りが高く味がよい



ゆず七味と本膳醤油  
天ぷらの衣はサクサク  
天つゆもあっさりしている



EMPTY DISHUES  
ご馳走様でした

後日、吉良家の墓がある西武新宿線「新井薬師前」



歩いて向かう

萬昌院功運寺

東京都中野区上高田 4-14-1



吉良家、今川家の菩提所

今川家は吉良家の分家

林芙美子の名前も



吉良家の墓所

元々は永田町にあったが現在の場所に移動

吉良家はこの寺を菩提寺として「義定」「義弥」「義冬」「上野介義央(よしなか)」の供養塔が建てられている

本堂



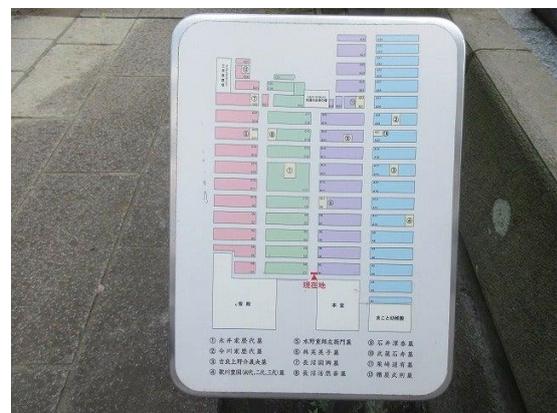
寺紋

本堂の脇を進む



こんな花が

途中で仏花を買ってお墓へ



案内版

こんな道を進むと



今川家歴代墓

今川氏は吉良氏の分家



合掌

さらに進むと



「吉良上野介義央墓」「吉良家忠臣供養塔」

五輪の塔が4つ

吉良家4代の墓と供養塔だ



裏に回ってみると



これは古くて読めない

義央の石碑面には「元禄十五壬午十二月十五日」と刻まれている  
赤穂浪士の討ち入りの際に死去した史実を裏付ける金石文



花が足りなかった

「吉良邸討死忠臣墓誌」

数えてみると38名の名前が刻まれている

赤穂四十七士の名前はよく見るが、戦死した吉良氏家臣の名前はあまり見ない

吉良邸は寝込みを襲われたため武装している赤穂浪士には勝てなかった



百日紅(さるすべり)  
満開だ



有名人のお墓も



駅に向かう途中の言葉



駅近くの中華料理店で昼食  
メニューは豊富だ



真空調理機が見える  
豚肉ときのこの炒め物定食



野菜がたっぷり

中華料理は味が濃い



皿を斜めにしてソースを奥に集める  
ご飯と一緒に食べると丁度いい



スープは薄味  
中華料理のスープで濃い味のものはない

食事を終えて駅に向かう  
途中のファミリーマート



都会のファミリーマートは喫煙所を併設している店もある

新井薬師前駅に到着



いい一日でした

次回は愛知県西尾市を紹介します

## 愛知県「西尾市資料館」と「吉良氏」

2024-12-14 17:00:11

12月14日は「赤穂浪士吉良邸討ち入りの日」  
今年9月に愛知県西尾市に行ってきました  
信州伊那からバスで名古屋へ  
途中、最近揚げ皮串で有名な「新時代」の看板



名古屋駅構内の「きしめん屋」メニュー



きつねきしめん たまに食べたくなる  
天むす



名鉄の吉良吉田行に乗り「西尾駅へ」

名古屋からは急行で1時間ほど



西尾駅

駅前のホテルにチェックイン



西尾城下町 歴史小径

早速西尾城へ



櫓

今回は吉良氏の研究であるためさっと見学し資料館へ

## 案内



## 天守閣跡 西尾市資料館



## 館内



## 西尾城ジオラマ

いろいろ展示してあったが、今回は吉良氏、今川氏、一色氏に絞って見た

## 西尾城の歴史

「承久の乱(1221年)」「後鳥羽上皇」と鎌倉幕府「北条義時」の対立抗争  
その功績で「足利義氏」が三河の守護となる

「応仁の乱(1467年～1477年)」

足利将軍家の後継者問題で、「細川勝元」と「山名宗全」との大名抗争

「今川義元」が吉良荘に侵攻する

「桶狭間の戦い」で今川義元が戦死



## 西尾城の城主

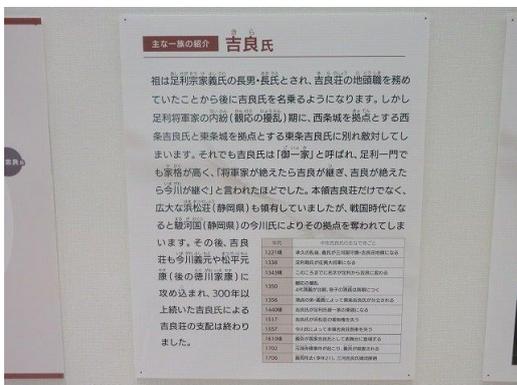
足利一門家計「吉良氏」

租は「足利宗家義氏」の長男「長氏」とされ、吉良荘の地頭職を務めていたことから「吉良氏」を名乗るようになった

吉良氏は「御一家」と呼ばれ、足利一門でも家格が高く、

「将軍家が絶えたら吉良が継ぎ、吉良が絶えたら今川が継ぐ」と言われたほど

戦国時代になると吉良荘も今川義元、松平元康(徳川家康)に攻め込まれ 300年に及ぶ吉良氏の支配が終わる



## 高家吉良氏

一度没落した吉良氏であったが、「西城吉良氏」の末裔である「吉良義定」が「徳川家康」と縁戚関係にあったことから、江戸幕府によって再興された

京都の公家とつながりがあったことから、高家(朝廷への使者、接遇役)として幕府で徴用された吉良氏は現在の吉良町の一部を領有しており、「上野介義央(こうずのすけよしひさ)」は、黄金堤や富好神殿を開拓し領民を大切にした

「赤穂浪士討ち入り事件」により殺害されると、吉良氏は吉良の支配を失い嫡流も断絶

## 「今川氏」

戦国大名として名をはせた「今川氏」も西尾を発祥とする一族

祖は「足利(吉良)氏の子「国氏」で、今川荘(今川町)を領したことから「今川氏」を名乗った義元の代には東海道一の戦国大名として繁栄した

義元が「織田信長」に「桶狭間の戦い」で討たれると勢力は著しく衰えた

しかし、江戸時代には高家旗本として存続した



## 「一色氏」

祖は「足利宗家泰氏」の子「公深」と言われ、吉良荘一色を治めたことから「一色氏」を名乗った6代将軍「足利義教(よしのり)」に反逆し、嫡流は討伐され衰退

## 足利一門の系図



家系図によると

「今川氏」は「義元」の子「氏真(うじざね)」の代で絶えている

「吉良氏」は「義央(上野介)」の子「義周(よしちか)」の代で絶えた



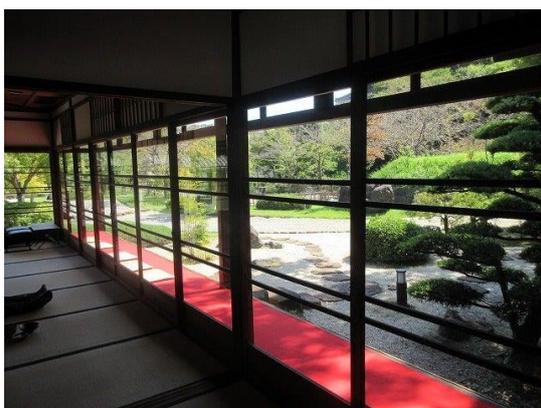
百日紅(さるすべり)の花が満開



資料館から見える櫓  
旧近衛邸



ゆかりのない西尾市に移転されている  
館内



茶室への道  
近衛家は藤原氏の流れをくむ名家  
皇室との係わりも深かった



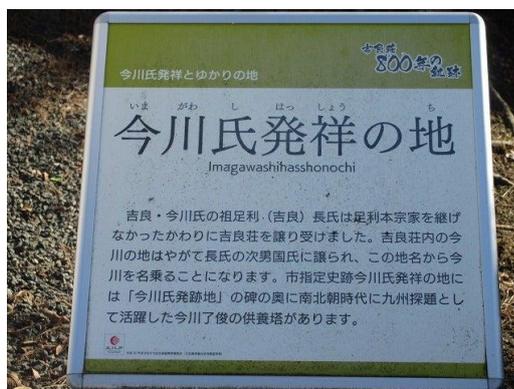
天皇や皇室が座る席  
畳縁(たたみべり)のデザインが違う  
庭を見ながらお茶を一服



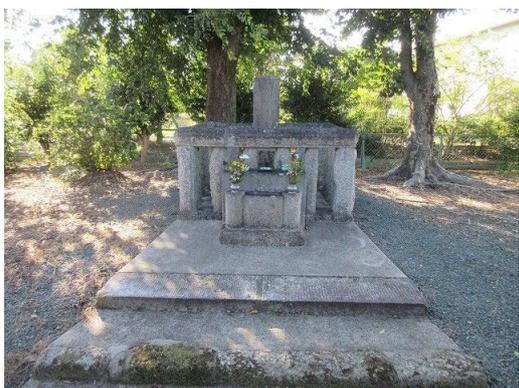
桃を形どった菓子か



## 「今川氏発祥地」



足利長氏は吉良荘を引きつだ  
今川の地であったため「今川」と名乗るようになった



今川貞世入道了俊君墓

今でも生花が供えられている



墓誌

目の前は小学校



前に訪問した米沢上杉神社  
「上杉氏」と「吉良綱憲(つなのり)」の運命  
山形県米沢市「上杉神社」

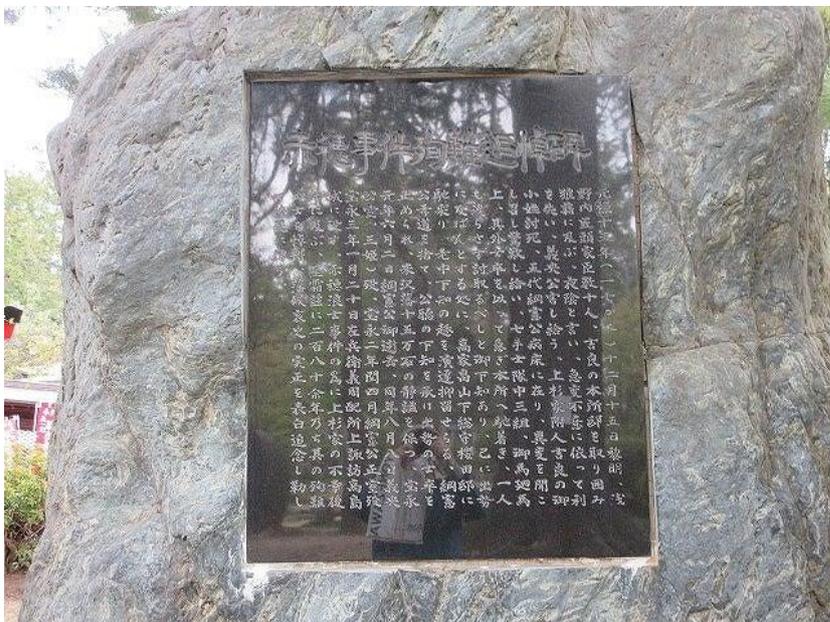


上杉神社御由来緒  
宝物殿



宝物殿隣にこんな石板がある  
吉良上野介の嫡男綱憲について書かれている

討ち入りの日には綱憲は上杉の屋敷にいた  
幕府から赤穂浪士に復讐することをきつく禁止されていた  
子の義周(よしちか)は吉良邸にいて背中に大傷を負っていた

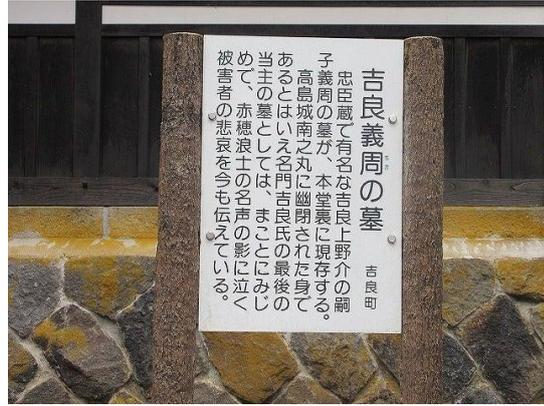


吉良氏終焉の地  
「吉良左衛門義周(よしちか)」の運命



諏訪大社が神仏合祀の「蓮花寺」  
長野県諏訪市  
諏訪大社上社の隣

この階段を登ると



吉良義周の墓  
墓と慰霊塔



### 吉良義周に捧ぐ

上杉綱憲の第二子として生を受け、五歳にして吉良上野介の後継ぎとして吉良家の人となる  
義周に突然不幸が襲った

「元禄事件」である

世論に圧せられ、いわれのなき無念の罪を背負い、配流された先でつぎつぎに肉親の死を知り、  
若き命を終えた

公よ、あなたは元禄事件の最大の被害者であった

吉良町



## 萬松山泉岳寺の縁起

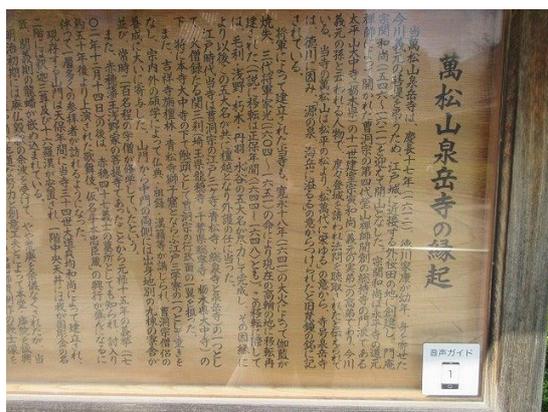
泉岳寺は、1612年、「徳川家康」が幼年身を寄せた「今川義元(吉良氏の分家)」の提を弔うため創建した寺

浅野氏の菩提寺でもあったため「浅野内匠頭の墓」もここにあった

赤穂浪士は「浅野内匠頭」の墓に「吉良上野介」の首を供えた

赤穂浪士は家康の思いを分かっていたのか？

綱吉はどう思ったのか？



次回も西尾市周辺を探索します

話があちこち飛んでしまい申し訳ありません